

研究課題名：がん診療拠点病院におけるがん疼痛緩和に対する
取り組みの評価と改善に関する研究

課題番号：H27-がん政策-指定-007

研究代表者：京都府立医科大学大学院医学科 教授 細川 豊史

1. 本年度の研究成果

本課題は平成27年9月11日付けで採択された。本研究班は平成27年度の目的として、(1)平成26年度厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「がん診療拠点におけるがん疼痛緩和に対する取り組みの評価と改善に関する研究」において実施された調査のデータの詳細な分析を行い、がん拠点病院におけるがん疼痛水準を評価するための方法を確立すること、(2)がん拠点病院におけるオピオイド使用量の妥当性を検討するための国内外のオピオイド使用量に関する文献レビューを行うこと、(3)次年度以降、全国のがん拠点病院のがん疼痛水準の評価とオピオイド使用の妥当性の検討を行うために、パイロット調査をすることを目的とした。

(1) がん拠点病院におけるがん疼痛水準を評価するための方法の確立に関しては、まず平成26年度に神戸大学病院で行った2回の調査のデータを詳細に分析した(1回目調査 N=98、2回目調査169)。これらの調査の結果、がん拠点病院のがん疼痛水準を評価するにはBrief Pain InventoryのNumerical Rating Scaleを用いて過去24時間の最大疼痛、平均疼痛、疼痛による生活の支障を評価するとともに、医療者の疼痛への対応状況を調査することが妥当であることを示した。また疼痛治療水準を測定する指標の分母となる患者は痛みを有する患者(NRSで1以上または鎮痛薬を使用している患者)とすることが妥当であることを示した。国際的に用いられている疼痛治療水準の指標であるPain Management Index (PMI)は39%であった。そのほか、個別化されたがん疼痛治療の目標であるPersonalized Pain Goal (PPG)の日本のがん患者の中央値が2/0-10であること、PPGは患者の背景や疼痛の程度に影響されないことを示した。これはPPGに関するわが国の初の研究成果である。

また、神戸大学病院の結果を受けて、調査の実施可能性を多施設で検討するために宮城県のがん診療拠点病院5施設で調査を行った。5施設で計695人の患者が適格となり、607人(87%)に対して実際の調査を行うことができ、実施可能性が示された。このうち痛みを有していた386人の患者について詳細なデータ分析を行った。5施設の患者背景には若干の違いがあったが、がん疼痛の強さの平均には統計学的に有意な差がなかった。全てのデータをプールし、疼痛の強さに対する関連要因を探索した結果、再発・転移がある、がん治療目的の入院ではない(緩和ケアなど)、PSが3または4である患者で疼痛の強さが高い傾向にあった。

(2) がん拠点病院におけるオピオイド使用量の妥当性を検討するための国内外のオピオイド使用量に関する文献レビューは現在進行中であるが、平成26年度に実施した拠点病院のオピオイド使用量の経年変化に関する調査結果をもとに、国内外の最新の文献や公表されているデータに関して分析をすすめている。

(3) これらの結果を受けて、次年度以降、全国のがん拠点病院のがん疼痛水準の評価とオピオイド使用の妥当性の検討を行うために、パイロット調査の研究計画書を作成した。本計画書は東北大学大学院医学系研究科倫理委員会で審査中である。

2. 前年度までの研究成果

本年度、新規採択された研究課題である。

3. 研究成果の意義及び今後の発展性

本研究の結果、次年度以降の検討も含めて最終的に期待される成果は（１）わが国のがん拠点病院でがん疼痛水準を評価するための調査方法が確立し、全国で同じ方法を用いて調査を実施することができること、（２）全国のがん拠点病院で調査をした結果を比較するための指標が確立し、妥当な方法で施設間比較を行うことが可能であるか検討すること、（３）がん疼痛の程度とオピオイドの使用状況の関連を個人単位・施設単位で検討し、オピオイド使用量を増加させることが鎮痛につながるか検討することの３点である。これらを通してわが国のがん患者に適切な鎮痛治療が行われるようになることが最終的な目標である。

4. 倫理面への配慮

調査は調査責任者の所属施設の倫理委員会の承認後、調査実施施設の倫理委員会の承認を受けて実施している。

5. 発表論文

1. 岸野恵, 木澤義之, 佐藤悠子, 宮下光令, 森田達也, 細川豊史. 大学病院入院中のがん患者の突出痛の頻度に関する予備調査. Palliat Care Res. 2012; 5:39-44

6. 研究組織

①研究者名	②分担する研究項目	③所属研究機関及び現在の専門 (研究実施場所)	④所属研究 機関にお ける職名
細川 豊史	がん診療拠点病院におけるがん疼痛緩和に対する取り組みの評価と改善に関する研究(総括)	京都府立医科大学疼痛・緩和医療学講座・緩和医療学 (同上)	教授
森田 達也	疼痛の評価に関する尺度開発に関する研究。アルゴリズムの構築	聖隷三方原病院、緩和支援診療科 緩和医療学 (同上)	部長
木澤 義之	苦痛の評価に関する研究	神戸大学大学院医学研究科先端緩和医療学分野 (同上)	特命教授
宮下 光令	効果的な患者調査の在り方に関する研究と拠点病院における調査	東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野 (同上)	教授
服部 政治	がんセンター群における疼痛管理不十分症例の調査	公益財団法人がん研究会有明病院 がん疼痛緩和部 緩和ケア (同上)	部長
上野 博司	調査データの整理・統計学的処理	京都府立医科大学疼痛・緩和医療学講座・緩和医療学 (同上)	講師

